

---

# さいたま市道路政策プラン

---

さいたま市建設局 令和8年3月

# はじめに

さいたま市建設局では、令和7年3月に「道路政策ビジョン」を策定し、「変化の大きい時代にあっても、市民のウェルビーイングに貢献し続ける」ことを道路行政のメインテーマに据え、道路行政を通じて実現を目指す未来像を提示しました。この未来像は、「こうなったらいいな」という夢や希望ばかりではなく、「変化をしないと未来は無い」、「このまま進むと行政サービスが破綻する」という危機感や焦燥感を背景にしたものです。

職員一人ひとりが、気候変動に伴う災害の激甚化・頻発化や巨大地震の切迫、あるいは老朽化や技術者不足といったインフラの持続可能性を根幹から揺るがす変化が訪れていることを強く認識し、そのような困難な状況にあって、いかに市民のウェルビーイングに貢献し続けられるか、ということを中心に主体的に考え行動する姿勢を醸成することが「道路政策ビジョン」、あるいは今回策定の「道路政策プラン」の重要な役割だと考えています。

「道路政策ビジョン」で提示した未来像を実現するためには、既存施策によるウェルビーイングへの貢献を再認識するとともに、必要な既存施策を着実に進めつつ、「既存施策により築いてきた土台の上に、新たな施策を+ $\alpha$ で上積みしていく」ことが重要です。この+ $\alpha$ を提示するのが「道路政策プラン」です。

変化の大きい時代にあっては、社会情勢の変化やトレンドを適時適切に捉え、先手を打って行動し続けることが求められます。「道路政策ビジョン」、「道路政策プラン」とともに固定化することなく、常に市民のウェルビーイングに貢献し続けることを念頭に、不断の見直しを続けます。

「道路政策プラン」を通じて、「ニーズや情勢の変化、日常業務における漠然とした課題感等を言語化し、改善策・解決策を+ $\alpha$ 施策として提案・実装し続けることで、市民のウェルビーイングに貢献し続けていきます。

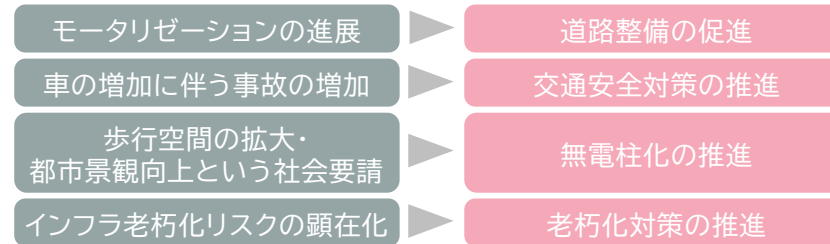
# 1 道路政策ビジョン・プランについて

# 道路政策ビジョン

本市の道路行政を通じて実現を目指す未来像として、令和7年3月に「さいたま市道路政策ビジョン」をとりまとめました。

## これまでの道路行政

・これまでの道路行政は、刻々と変化する社会経済情勢を踏まえ、目の前の課題に対応する「課題解決型」の施策が実施されてきました。



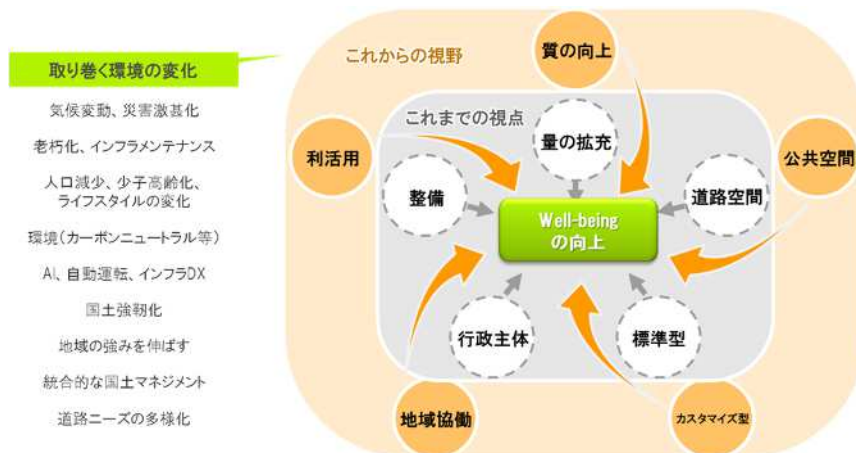
「目の前の課題を解決」  
するための施策を実施

**課題解決型の施策展開**

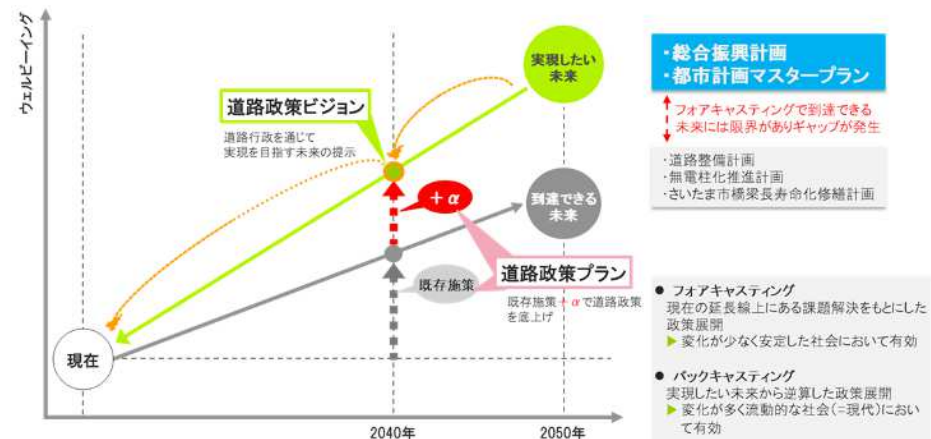
## これからの道路行政のあり方

- ・近年、道路行政を取り巻く環境は大きく変容し続けており、多様化・複雑化する社会課題に対して、これまでと同じことを繰り返すだけで行政サービスレベルを維持することは、もはや不可能です。
- ・市民のウェルビーイングを「向上させる」、あるいは「確保し続ける」、という道路行政の本質的な目的は変わらない中で、これからも市民のウェルビーイングに貢献し続けるためには、課題解決型の思考から脱却し、バックキャスト型の道路行政へ転換することが鍵となります。

### ■道路行政を取り巻く環境の変化を踏まえたこれからの視野



### ■「ウェルビーイング」の向上に向けた道路行政のアプローチ



# 道路政策ビジョン

## 取り巻く環境の変化を踏まえた道路行政を通じて実現を目指す未来像(2040年)

・道路行政を取り巻く多様な変化の内容に対し、4つの視点から道路行政を通じて実現を目指す未来像を示しています。

### 道路行政を取り巻く 多様な変化

気候変動・災害激甚化

加速するインフラ  
老朽化・担い手不足

人口減少、少子高齢化、  
ライフスタイルの変化

環境意識の高まり

DX、AI技術の  
急速な進展

### 防災・減災・強靭化

⇒ 道路インフラ強靭化の取り組みを加速させ、  
防災・減災社会に貢献している



### 安心・安全・高質化

⇒ 安心・安全を確保しながら、多様なニーズに  
柔軟に対応した高質な道路空間を創出している



### スマートインフラ

⇒ 道路分野における、持続可能な  
インフラメンテナンスシステムを構築している



### カーボンニュートラル

⇒ 道路行政における、脱炭素の取り組みを推進し、  
持続可能な都市生活環境の形成に貢献している



# 道路政策プラン

「道路政策ビジョン」で提示した未来像を実現するため、道路政策の羅針盤となる「さいたま市道路政策プラン」をとりまとめました。

## 道路政策ビジョン、道路政策プランの役割

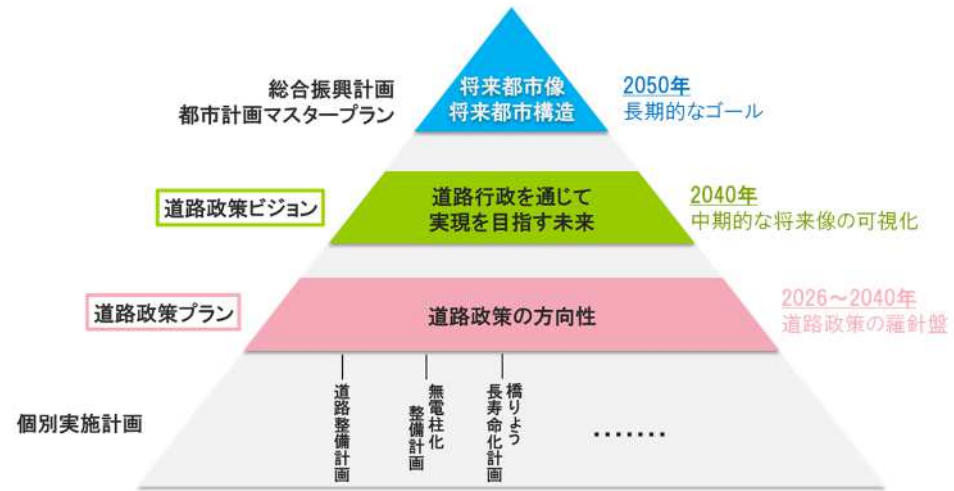
・以下に本市の将来都市像や将来都市構造の実現に向けた道路政策ビジョン、道路政策プランの役割を示します。

### 道路政策ビジョンの役割

取り巻く環境の変化を捉えたうえで、本市の道路行政を通じて実現を目指す未来像を提示し、その未来像に対する道路行政の貢献の方向性を提示

### 道路政策プランの役割

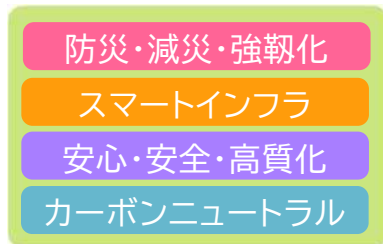
道路政策ビジョンで提示された未来像に対し、貢献の方向性の観点から現状とのギャップを明らかにし、ギャップ解消に向けた施策展開を示すことをメインテーマに、ビジョンと個別実施計画をつなぐ**道路政策の羅針盤**としての機能を担う



## 道路政策プランの体系

・道路政策プランは、道路政策ビジョンで示した4つの視点から現状認識と未来像とのギャップを埋める施策展開の方向性を明らかにしたうえで、目指すべき未来像の実現に向けて実装すべき具体的な施策展開を示します。

### 道路政策ビジョン



### 道路政策プラン



第3,4章  
※施策の実装検討段階につき、  
実装段階で公表予定

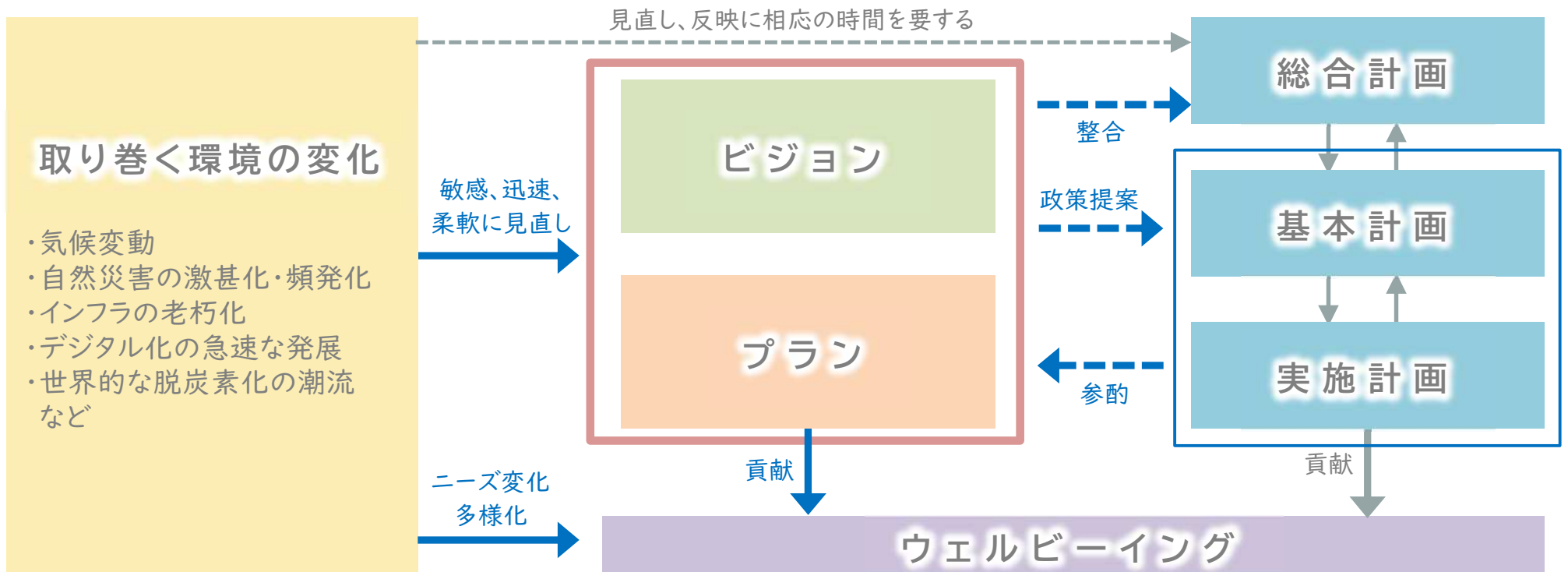


# ビジョン・プランの計画体系と取り扱い

## 計画体系における位置付け

- ・「はじめに」で述べたとおり、近年の道路行政を取り巻く環境は急速に変化し続けており、変化を適時適切に捉え、また予測することで、臨機応変に対応していくことが求められます。
- ・そのため、本市の計画体系（総合計画、基本計画、実施計画）の外側にビジョン・プランを位置付けることで、取り巻く環境の変化を敏感に捉え、スピード感をもって柔軟に見直ししていくことを基本理念とします。
- ・ビジョンやプランにおいては、様々な事業に共通する課題感や閉塞感を取り扱うことで既存スキームの効率化や円滑化を図るほか、取り巻く環境の変化を捉え、新たに取り組むべき道路政策を立案、提案することで、道路行政の底上げを図っていきます。

### ■取り巻く環境の変化に応じた、見直しイメージ



## 2 目指すべき未来像の実現に向けた取組の方向性

# 視点1 防災・減災・強靱化

・道路ネットワーク脆弱性解消の取り組みを加速させるとともに、有事における機能発揮を前提とした道路行政へと転換を図ることで、防災・減災社会の構築に貢献していきます。

## 未来像

道路インフラ強靱化の取り組みを加速させ、  
防災・減災社会に貢献

### 現状認識・課題

近年、地震や集中豪雨等、想定を超える自然災害が頻発し、今まで以上に「災害がいつでもどこでも起きうる」状況

本市も例外ではなく、脆弱な道路網、低地の浸水リスク、人口密集による避難困難といった問題を抱えている

道路は、全ての社会、経済活動の基盤であり、寸断による避難・救助・支援の遅れは人命に直結

災害時の被害状況に関する情報収集、発信手段の確保に課題があり、従来の「有事のみ対応する防災」には限界

強靱化施策にはスピード感が求められる一方で、市民ニーズ等の社会要請が急速に多様化、複雑化しており、事業の長期化傾向に拍車

### 取組の方向性

#### 方向性①

フェーズフリーな  
道路行政への転換

#### 方向性③

事業期間の短縮化による  
早期整備効果発現

#### 方向性②

ネットワーク整備による  
基盤強化

#### 方向性④

情報収集・発信手段  
の構築

## 視点2 スマートインフラ

・DXの積極導入によるコスト縮減や労働生産性向上の取り組みを推進しつつ、人材育成のあり方の見直し等を通じた組織力向上の取り組みにも注力することで、行政サービス提供体制の強化・底上げを図り、持続可能なインフラメンテナンス体制の構築を進めていきます。

未来像

持続可能な

インフラメンテナンス体制の構築

取組の方向性

### 現状認識・課題

人口減少や少子高齢化の進展に伴い、土木分野における担い手不足、高齢化が深刻化

本市においても、土木職員の人員確保に苦慮しており、これまでと同等の人員を確保できる見通しは無い

一方で、市民ニーズの多様化や専門技術の進展に伴い、職員一人一人に求められる業務は、肥大化・多様化・専門化

加えて、維持管理が必要となる道路ストックは右肩上がりに増え続けており、持続可能なインフラメンテナンス体制の再構築が課題

方向性①

労働生産性の向上

方向性②

コスト縮減

方向性④

リクルート活動の強化

方向性③

多様な主体の参画

方向性⑤

組織力の向上

# 視点3 安心・安全・高質化

・道路空間における滞留機能強化に資する取り組みを着実に実装することで、社会的包摂性を有した道路空間への転換を図るとともに、多様化するニーズに応えていくことで、道路空間の高質化を進めていきます。

## 未来像

安心・安全を確保しながら、多様なニーズに柔軟に対応した高質な道路空間を創出

## 取組の方向性

### 現状認識・課題

道路には空間機能があり、トラフィック機能を超えた多面的な価値や用途が再認識

道路は、単なる物理的な移動だけでなく、地域の社会的なつながりを形成する場としても機能

道路空間の安心、安全は、日常的な生活の質を向上させるものであり、子供や高齢者、障害者に配慮した社会的包摂性が求められる

DXの進展やライフスタイルの変容等により、道路空間における高質化ニーズが拡大

### 方向性①

滞留機能の強化

### 方向性②

社会的包摂性の確保

### 方向性④

自動車交通以外の用途を見据えた道路設計への転換

### 方向性③

交通安全対策の推進

### 方向性⑤

多様な高質化ニーズへの柔軟な対応

# 視点4 カーボンニュートラル

・道路分野における脱炭素化に資する取り組みについて、新たな施策実装だけでなく、既存施策も含めた削減効果の定量化・可視化を通じて、道路分野が果たすべき責任や目標を明確化し、未来世代が住み続けられる持続可能な都市生活環境の形成に貢献していきます。

## 未来像

道路における脱炭素の取り組みを推進し、持続可能な都市生活環境の形成に貢献

## 取組の方向性

### 現状認識・課題

地球温暖化の進行に伴い自然災害が激甚化・頻発化しており、本市においても甚大な被害が発生

地球温暖化の主要因とされているCO2排出量削減の取組は、地球規模での喫緊の課題であり、対策が急がれる

国際的な動向として、脱炭素の取組を「制約」や「コスト」と捉える時代は終わり、「成長の機会」として再認識

国内CO2排出量の約2割が道路分野に起因するものであり、道路分野における脱炭素化に向けた取組の具体化が課題

方向性①  
道路交通のグリーン化

方向性③  
再生可能エネルギーの活用

方向性②  
道路ライフサイクルの脱炭素化

方向性④  
サーキュラーエコノミーの推進